

新しい視点が
気づきを与えてくれる



佐々木淳一さん（宮内）

「チェーンソー作業者の資格を取りました」。お話を聞いた日がチェーンソー作業のデビュー日だったそう。飯舘村森林組合（白石）の車庫の前で。

木こりの仕事を
学んでいます

木こりに憧れ、求人情報を見て、村への移住を決めたと言う佐々木さん。7月から、飯舘村森林組合で仕事を始めました。移住前は、通信工事の仕事をしていた。ビルや鉄塔の上が作業場だったそう。「家もバス通りに面していて騒がしく、自然豊かな所で暮らしてみたい」と言います。もともと、北は北海道から南は沖縄の離島まで、キャンプをしながらバイクで訪れ、リゾート地で住み込みのアルバイトをするなど、行動的な人生を送ってきました。「隣町まで買い物に行くちよつと不慣れた生活も楽しい」と笑顔。「この仕事をしながら、いずれは自給自足の生活してみたい」。現在は、先輩から仕事を教わる毎日。「年配の方もバリバリの現役。山の中を歩くと、追いつけないほど速いですが。僕もどこまでできるか、自分を試してみたい気持ちです」。

村内企業で仕事を始めた貴子さん。移住前は電車で1時間かかった通勤時間は徒歩5分に。「移住は（健太さんの）決意が固まってから聞きました（笑）」。



小原健太さん・貴子さん（白石）

新しい毎日を
満喫しています

今年5月に埼玉県さいたま市から移住した小原さん夫婦。移住前の健太さんは、梱包資材を販売する会社の営業職で、宮城県仙台市に単身赴任をしていました。取引先の種苗会社の人と、意見をぶつけ合う間に親しくなり、農業の魅力を尋ねたことが、この移住のきっかけとなったそう。「会社をやめ、ローンを組んで購入したマンションを売って」やって来ました。農業用ハウスを建て、来年からは、花農家として仕事を始める予定です。「お会いした村の人は、皆さんもれなくいい方で。すでにいろいろな人と交流しているそうです。「営業職だったのが役に立っているのかな。初めての方とも抵抗がないので」と笑います。「暮らしも思ったより快適。全てのが新しく、期待も大きいです」。貴子さんも、自然豊かな村の雰囲気をととても気に入っているそうです。

さまざまな縁がある

その多様性は2可能性

草野字カヨウの自宅前にて。平成25年には忠犬八子公オブジェの寄贈にも関わりました。下の写真は「いいたてホーム」で、左から2人目が塚越さん。



塚越栄光さん（草野）

移住100人目の
「までい大使」

植栽管理や庭木の手入れなどを行う株式会社「庭坊」（東京都世田谷区）で代表を務める塚越さん。渋谷公園通商店街での仕事を通じて、東日本大震災の被災地と交流を持つようになりました。「東北の被災地に花を贈る取り組みに携わり、『いいたてホーム』を訪れました。入所者の生命を守るため村内に残ったホーム。そこで働く皆さんが花を喜んでくださった。それがきっかけとなり、渋谷の花壇を舞台に、村の子どもの達のメッセージを発信したり、までの石碑がつけられたり」。行った来り来たりの交流が続きました。平成29年からは、飯舘村の「までい大使」に。そして、自然豊かな村で新たな仕事おこしがしたいと、移住を決意しました。「これも縁。村の人が必要としていることに、関わりたい」。塚越さんが、100人目の移住定住者です。